

## 事業名

# 地域・わが家の防災力アップ講座 ～出前講座も好評です！～

### 実施センター

高松市男女共同参画センター

施設名 高松市男女共同参画センター

香川県高松市錦町一丁目20番11号

Tel. 087-821-2611 Fax. 087-821-2661

E-mail. touroku-net@peace.ocn.ne.jp

URL <http://www.sankaku087.net/>

指定管理者 特定非営利活動法人たかまつ男女共同参画ネット

### センターについて

平成7年開館。同18年より指定管理者制度が導入され、特定非営利活動法人たかまつ男女共同参画ネットが施設管理・事業運営を行う。事業の4本柱は学習研修、相談、情報収集提供、活動交流。

主催講座は原則無料の託児付き、無料の託児タイム（月10回）も子育て中の人に好評である。再就職支援パソコン講座は人気講座の一つ。同21年センター内に防災グッズコーナーを設置。出前講座では、わが家の防災ノート活用講座、防災・減災と男女共同参画などの内容のほか、寸劇「高松さんかくゆめ一座」、デートDV防止講座、セクハラ・パワハラ防止セミナーなど出前回数は年間30回を超える。センター登録団体は同25年2月末現在161団体。

## 事業内容の紹介

センター内の講座と出前講座の両方を行っている。講師にはこれまで香川大学・危機管理研究センター教授、市の建築指導課、消防署、高松地方気象台等に依頼するなど、公的機関と連携を図っている。講座の特徴として平成22年発行『わが家の防災ノート～生き残るために～』の活用がある。わが家の状況をチェックしながら備えが進む書き込み形式。この防災ノートを自治会、自主防災会、婦人会等がまとめて購入して防災講座を開くなど、当センターと地域コミュニティとの連携につながっている。

## 実施までの経緯

阪神淡路大震災を経て新潟中越地震後、防災・災害復興と女性の参画に関するフォーラム、シンポジウム等が相次いで開催され、それらの報告書が届いた。例えば、2006年国立女性教育会館発行の研究ジャーナル「災害復興とジェンダー」等を手にし、災害時に浮上した数々の女性問題を知り、防災分野への女性の参画拡大の必要性を認識した。そして、当センターの学習研修に女性の地域防災リーダー養成講座を取り入れることとし、平成20年度から香川大学危機管理研究センターの協力を得て、「地域・わが家の防災力アップ講座」（9回）を開催した。内容は「防災・災害復興に活かす女性の視点・女性の力」、「高松市の防災対策と自主防災組織の現状」「防災気象・地震情報の読み方と備え」「自分の地域の災害特性を知る」「防災・避難のマイマップを作る」などで、延べ830人が受講した。

以来、同講座は毎年開催しており、平成22年度には、習得した知識を行動に移す効果的な方法として「防災ノートづくり」を企画、同年6月に『わが家の防災ノート～生き残るために～』（1冊200円）をNPO法人たかまつ男女共同参画ネットが発行し、教材として使用した。「わが家の防災ノートづくり講座」を受講した女性たちが自分の地域で同様の講座を実施したり、当センターの出前講座を利用して研修会を行うなど、地域の防災力アップにリーダーシップを発揮している。

## 学習プログラムの概要

### 事業の目的

防災分野への女性の参画、防災の現場における男女共同参画の促進を目指し、地域の防災組織に参画できる女性リーダーの養成と、女性の防災意識の高揚、災害弱者といわれる高齢女性の自助力アップを図る。

会場 1回目：県外の施設（バス1台にて）

2～4回目：高松市男女共同参画センター

参加対象 一般市民

回	日時	テーマ	講師 (敬称略)
1	10月2日(火) 8:30～17:00	人と防災未来センター(神戸) &野島断層見学(北淡) ～大震災の教訓を活かし、防災・ 減災対策を!～	人と防災未来センター職員 野島断層保存館職員
2	10月18日(木) 13:30～15:30	南海トラフ巨大地震の被害想定 見直しへの対応	香川大学工学部 危機管理研究センター教授 長谷川 修一
3	11月1日(木) 13:30～15:30	住宅の耐震診断・耐震化と補助 事業 自主防災組織の現状と課題	高松市建築指導課職員 高松市北消防署予防課職員
4	11月15日(木) 13:30～15:00	わが家の被害を最小限にくい止 めよう! ～防災ノートの活用と実践～	男女共同参画センター職員

## 学習プログラムの具体的構成

<センター内の講座>

### 第1回目（平成24年10月2日）

テーマ 人と防災未来センター&野島断層見学 ～大震災の教訓を活かし、防災・減災対策を！～

時間	学習内容	ねらい
8:30	高松市男女共同参画センターを出発 淡路の北淡町震災記念公園野島断層保存館見学 被災した民家・メモリアルハウス見学 震度7の揺れを体験	震度7による断層、地面のズレ等の地形の変化、住宅の被害を目の当たりにし、防災・減災対策への意識を高める。
	昼食	
13:00	人と防災未来センター（神戸）到着 1.17シアター視聴 開設10周年企画展「想定 南海トラフ巨大地震 被害想定を通して考えよう、これからの防災・減災」を見学	リアルに再現された映像と音により、大地震の凄まじさを体感するとともに、被災者の気持ちを考える。これから自分自身が何をすべきか、何ができるかを考える。
17:30	男女共同参画センター到着	

### 第2回目（平成24年10月18日）

テーマ 南海トラフ大地震の被害想定見直しへの対応

時間	学習内容	ねらい
13:30	香川大学工学部、危機管理研究センター教授 長谷川修一教授より、8月末に見直しが公表された南海トラフ巨大地震被害想定と対応について、パワーポイントによる図解、グラフ、映像等で分かりやすく説明 クイズ形式で受講生に考えてもらう	内閣府が8月30日発表した「南海トラフ巨大地震の被害想定の見直し」について知り、地域・わが家の防災対策を見直してみる。
15:00	質疑応答	

### 第3回目（平成24年11月1日）

テーマ 住宅の耐震診断・耐震化と補助事業、自主防災組織の現状と課題

時間	学習内容	ねらい
13:30	住宅の耐震診断・耐震化と補助事業 高松市建築指導課 網谷 氏より住宅の耐震診断と耐震補強、市の住宅耐震改修等事業、補助金申請の手続き方法の説明を受ける。 各自が耐震診断問診表に記入する。質疑応答。	建築が昭和56年以前の住宅はもとより、住宅の耐震診断、耐震化の必要性を知る。
14:30	自主防災組織の現状と課題 高松市北消防署予防課 「なんで、つくらの 自主防災組織結成Q&A」を使って、組織結成、防災活動などを説明。質疑応答。	まだ自主防災組織がない地域に発足を促す。自主防災組織のリーダーに必要なことを学ぶ。

## 第4回目（平成24年11月15日）

テーマ わが家の被害を最小限に食い止めよう！ ～防災ノートの活用と実践～

時間	内容	ねらい
13:30	『わが家の防災ノート～生き残るために～』の活用方法を説明 避難経路・場所の確認 家具の転倒防止の方法を紹介 ガラスの飛散防止の実演と体験 非常持出袋の中身を紹介	防災ノートを活用して、わが家の防災対策を進めていく方法を学ぶ。自助力アップが地域の防災力アップにつながることを再認識する。
14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな非常食を用意すればいいか</li> <li>各テーブルに非常食を並べて置く</li> <li>実際にアルファ米にお湯を注いで作ってみる</li> <li>そのまま食べられるレトルト食品、缶詰の試食</li> <li>• 簡易トイレ作り、ポリ袋の利用方法を体験</li> </ul>	具体的にどんな非常持出品を準備するか、何をどの程度備蓄しておけばいいかを知る。
15:00		

### <出前講座>

内 容 出前講座申込み団体の要望、対象者に合わせて決定

所要時間 30分～90分（要望に合わせる）

#### ◆自治会・自主防災会・各種団体向け

内容例 わが家の防災ノート活用講座

地震・防災対策関連のDVD上映、避難カード作成、わが家の防災ノートの活用方法  
防災グッズの紹介、防災対策に男女共同参画の視点の必要性をPR

講 師 センター職員

#### ◆保健委員会向け

内容例 防災における保健委員の役割と活動

防災・減災対策と男女共同参画についてパワーポイントによる説明  
グループごとに取り組み、課題を話し合う

講 師 センター職員

#### ◆地域コミュニティセンター向け

内容例 防災・減災対策と男女共同参画

だれもがいきいき参画紙芝居『防災・減災と男女共同参画』  
(平成24年度NPO法人たかまつ男女共同参画ネット制作)

講 師 高松さんかくゆめ一座、センター職員

平成24年度

- 7月13日（金） 13：30～15：00 香川町川東婦人会  
 テーマ： 女性と防災～東日本大震災被災地の女性の取り組み～
- 7月22日（日） 14：30～15：00 大野校区連合自治会  
 テーマ： わが家の防災ノート活用講座
- 11月30日（金） 13：30～15：00 木太北部コミュニティセンター  
 テーマ： わが家の防災ノート活用講座地域
- 12月10日（月） 10：00～11：30 高松市保健委員会山田ブロック  
 （香南コミュニティセンター）  
 テーマ： 避難所における弱者を救うための留意点～よりよい保健委員会活動のために～
- 1月24日（木） 14：00～15：00 一宮地区保健委員会・一般  
 テーマ： 『防災・減災と男女共同参画』（だれもがいきいき参画紙芝居）
- 3月5日（火） 13：30～15：00 塩江地区保健委員会  
 テーマ： 防災における保健委員の役割と活動
- 3月31日（日） 10：30～11：30 香川町大野婦人会  
 テーマ： 防災・減災と男女共同参画～東日本大震災の教訓を生かそう～

わが家の防災ノート活用講座

時間	学習内容	ねらい
6分程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 避難カード作成 参加者に避難カードに、自分の名前、住所、血液型、緊急連絡先などを記入してもらい、集める。</li> </ul>	避難をするときに利用してもらおう。 避難時の身元証明になる。
20分程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DVD視聴 例「地震だ そのときどうする？」 「家具の転倒防止」 ※DVD視聴の間に避難カードをラミネートし、ひもを通すための穴をあける。</li> </ul>	自助の命は自分で守る、近助（隣近所の助け合い）の大切さを認識する。 地震発生時の行動について知識を習得する。
40分程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 防災ノートの説明と記入 途中、参加者に質問を投げかけながら進める</li> </ul>	自分・わが家のことを考えながら、自分だけの防災ノートの活用方法を知ってもらおう。 防災グッズを手にとってもらう。
30分程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 防災グッズの説明 各テーブルに防災グッズを置いておく</li> <li>• 非常食の紹介、試食など 質疑応答、感想、意見を述べあう</li> </ul>	
	アンケート記入、提出	

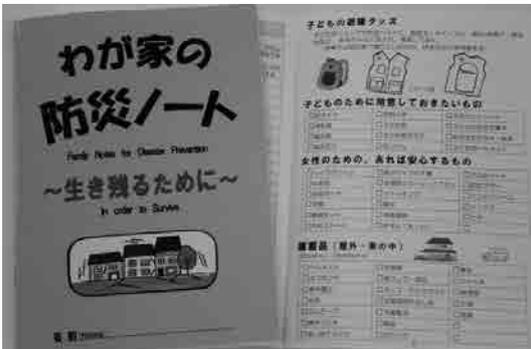
<センター内の講座>



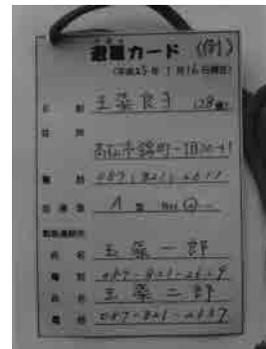
北淡震災記念公園野島断層で地形の変化を目の当たりにする



グループで作業し話し合う。託児付きなので若い人も参加。



書き込み式だから自分だけの防災ノートが作れ、災害への備えも進む。



避難するときに身に付けておく。

<出前講座>



地域の防災訓練に協力し、避難カード作り、防災グッズコーナーを設けた。



自治会への出前講座。「防災対策に女性の視点を」と呼びかける



災害時に起こる女性問題を取り上げた紙芝居



「ストーリーも演技もよく、意識を持つことの大切さを実感した」との声があった紙芝居の出前講座

## 教材（例）

『わが家の防災ノート～生き残るために～』

（NPO法人たかまつ男女共同参画ネット2012年4月第3刷発行）

## 企画時や実施時に工夫したこと

### ■地域・わが家の防災力アップ講座

平成20年度スタート時は多彩な内容で9回実施したが、回数が多いのが負担との声があり、次年度より6回に減らし、現在は4回程度にしている。1回の所要時間は1.5～2時間程度、隔週の開催が参加しやすいようだ。リピーターの参加も期待できるので、毎年、内容を少しずつ変え、新たな情報が提供できるよう配慮している。

講座のうち1回はバス（県内は市の市民活動バスを利用）で防災関連の施設、断層の現地見学、高松地方气象台等に出かけるなど、参加意欲を高めてもらう工夫をしている。また、車内などで参加者がお互いの地域の防災について情報交換する機会にもなっている。

## 参加者の声

### センター内の講座

- ・時宜を得た良い企画に参加でき、今後の地震対策に生かせそうだ。
- ・百聞は一見に如かず。リアルな設備で体験できた（人と未来防災センター）。今後、防災対策をしっかりやりたい。
- ・地震が発生したらどんな風になり、どう対処しなければならないか具体的なイメージをもつことが必要だと思った。震災に対する心構えを改めて認識した。
- ・地域で具体的に訓練するように働きかけようと思う。
- ・家の耐震化について家族と話し合おうと思う。
- ・これからも地域の防災活動とセンターの講座に参加していきたい。
- ・非常食や保温シートなど準備する物が具体的にわかって大変役に立った。
- ・5～10年先のことを考えると体力もなくなるので、それを考慮して避難方法を考えたい。

### 出前講座

- ・女性の参画がこれから必要だと思う。多数の女性が関心を持つような機会を増やしてほしい。
- ・一番に自分の安全確保。次に周りを見渡し、手助けし行動する。訓練の打ち合わせなど地域の自主防災会に働きかけたい。

- ・今まで非常持出袋を準備していなかったが、準備の必要を感じた。地区のリーダーとして皆と協力して力を発揮したい。
- ・防災ノートはとてもよい。何回も講座をしてほしい。
- ・紙芝居は録音ではなく生声なので、そこが良い。避難所生活とDVとの関係は考えさせられた。男性が見る機会が多くあればいいと思う。
- ・紙芝居の中でDV被害者の自立を支援する「パープルBOX（生活用品提供箱）」の存在を初めて知った。最後に手話を取り入れていたので興味を持った。

## 実施後の状況

センターでの講座の参加者は、防災学習に積極的な人であり、修了後、地域で自らがリーダーとなって「わが家の防災ノートづくり講座」を開いたり、センターの出前講座を利用した研修会を企画するなどリーダーシップを発揮している。

当センターとしても、自治会等での出前講座は土・日や夜間を要望されることもあるが、出来るだけ対応している。こうした出前講座は、男女共同参画の地域づくりという観点からも、「防災・減災対策に女性の視点を」と呼びかける機会が増えたという成果をもたらしている。

また、福祉関連NPOへの出前講座がきっかけで、点字サークルとの協働で『わが家の防災ノート』の点訳本を制作、障がい者への配慮の必要性を認識することができた。

平成24年11月の高松市男女共同参画市民フェスティバルでは、防災・減災と男女共同参画シンポジウム「東日本大震災の教訓を生かそう！～今、何をすべきか、何ができるか～」を開催、これまでの受講生も多数参加し、岩手、宮城、福島各県3人のパネリストの報告、提言を参考に、防災分野における女性の参画の重要性を再確認しあった。

## 今後の実施に向けた課題

防災・減災への男女共同参画の推進、地域・わが家の防災力を向上させていくためには、継続的に講座を開催することが重要である。また、参加意欲を促すためには、国・県・市の防災・減災対策の動向を踏まえ、タイムリーな企画を取り入れるなどの工夫が必要である。

平成20年度、女性の地域防災リーダー養成講座スタート時から大勢が受講した高松市婦人団体連絡協議会が、同24年11月、市内約30地区のリーダーで組織する「市婦連・女性防災会議」を発足させ、各地域の防災対策会議などに女性の参画を増やすための活動を開始した。そうした女性防災会議と当センターとの連携を深め、防災分野への女性の参画の促進、女性の防災力アップに役立つ事業を展開していくことが課題である。

また、男性の参加が多い自治会等への出前講座は、「防災分野に女性の参画が必要」とアピールするチャ

ンスであり、理解を得る機会ともなるので積極的に開催していきたい。

同25年度は、東日本大震災被災地からの各種報告書、提言書を生かし、女性の視点を入れた避難所設計、避難所運営への女性の参画などをテーマに取り上げ、実習を盛り込んでいきたい。

さらに次世代の女性リーダー養成も視野に入れ、学生、子育て中の女性向けの防災力アップ講座などの企画にも取り組んでいきたいと考えている。